

高専統一業務システム用クラウド基盤 一式

Cloud foundation of Unified Business Systems
for all National Institute of Technology

1 set

評価選定要領

平成29年6月



独立行政法人 国立高等専門学校機構

本資料は、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)が調達する「高専統一ネットワークシステム整備等に係る調達支援業務」に係る入札の評価に関する基準について述べたものである。

1. 入札価格の評価方法

入札価格の評価については、次のとおりとする。

入札価格の得点は、入札価格を予定価格で除して得た値を1から減じて得た値に、入札価格に対する得点配分を乗じて得た値とする。

$$\text{入札価格点} = \text{価格点の配分} \times (1 - \text{入札価格} \div \text{予定価格})$$

2. 技術等の評価方法

入札に係る技術等の評価は、別冊の仕様書、別添の評価項目及び得点配分基準／加付与基準(以下「評価基準」という。)に基づき、以下のとおり評価を行う。

なお、仕様書及び評価基準に記載されていない技術等は評価の対象としない。

また、仕様書及び評価基準に記載されている技術等であっても、入札に係る技術等が機構としての必要度・重要度に照らして、必要な範囲を超え、評価する意味のないものは評価の対象としないことがある。

- (1) 評価基準に記載する必須の評価項目に係る技術等については、評価基準に記載する必須の基礎点を与え、更に、それを超える部分については、評価に応じ評価基準に示す加点の点数の範囲内で得点を与える。
- (2) 仕様書に記載する技術等の要求要件(以下「技術的要件」という。)を満たしているか否かの判定及び評価基準に基づき付与する得点の判定は、技術審査委員会において、提出された総合評価に関する書類その他入札説明書で求める提出資料の内容を審査して行う。

3. 得点配分

区分	価格点	技術点(加点)	合計
配点	440	880	1,320

4. 総合評価の方法

(1) 入札価格及び技術等の総合評価は、次の各要件に該当する入札者のうち、「1. 入札価格の評価方法」により得られた入札価格の得点に、「2. 技術等の評価方法」により得られた当該入札者の申込みに係る技術等の各評価項目の得点の合計を加えて得た値をもって行い、当該数値の最も高いものを落札者とする。

① 予定価格の制限の範囲内の入札価格を提示した競争加入者であること。

② 入札に係る技術等が仕様書で規定する技術的要件のうち必須とした要求要件を全て満たしている技術等を提案した入札者であること。

(2) 上記数値の最も高い者が2人以上であるときは、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。

この場合において、当該入札者のうち出席しない者又はくじを引かない者があるときは、入札執行事務に関係のない職員に、これに代わってくじを引かせ落札者を決定する。

独立行政法人国立高等専門学校機構本部様向け統一業務システム用クラウド基盤 加点項目

仕様書に記載の内容についてはすべて満たしていること。

以下に述べる加点については、満たす項目についてそれぞれチェックを入れ、項目を満たしていることが分かるような提案書を付けること。

提案箇所については分かりやすいように付箋等を付けること。

なお、加点内容については特に記載がない限りは追加料金なしに実施できることとする

評価項目(要求要件)		評価区分			check
			加点(最大)	合計(最大)	
1.1 データセンター					
3	半径1km以内に消防法によるところの指定数量以上の危険物製造設備、火薬製造設備、高圧ガス設備がないこと	加点	10	10	
26	部屋の周囲だけでなくラック間にも監視カメラが設置されている	加点	5	5	
26	ラック周辺監視カメラの録画期間が6ヶ月以上	加点	5	5	
	プライバシーマークを取得しているまたはJIS Q 15001に合格している	加点	5	5	
	データセンターにて24時間365日死活監視、パフォーマンスの監視ができる	加点	10	10	
	主データセンターが、日本データセンター協会基準のティア4に準拠している	加点	5	5	

1.2 サーバ					
	ネットワークインターフェースを10Gbps対応としている	加点	50	50	
1.2.3	仮想基盤内のAPサーバ・DBサーバ共にリソース拡張等変更が可能なこと(再起動あり)	加点	30	30	
1.2.3	仮想基盤内のAPサーバ・DBサーバ共にリソース拡張等変更が再起動なしに速やかに可能なこと	加点	60	60	
1.2.3	仮想サーバが稼働する物理サーバに障害が発生した場合、自動的に別の物理サーバへ仮想サーバをフェイルオーバーできること。	加点	10	10	
1.2.3	サービスの停止を伴わずに、物理ホストのCPU、メモリの負荷を自動的に分散する機能(ロードバランシング)を有すること。	加点	15	15	
1.2.3	クラウド基盤のメンテナンス時に仮想サーバを他の物理サーバに無停止で移動できること。	加点	10	10	
1.2.3.1	管理GUIで仮想マシン、ハイパーバイザー、ストレージ、ハードウェアの一元管理を可能とする。	加点	10	10	
1.2.3.1	管理GUIにて仮想基盤サーバのハードウェア、ハイパーバイザー、ストレージソフトウェア、ネットワークの全てに関するヘルスチェックが実施可能である。	加点	10	10	
1.2.3.1	管理GUIにてストレージソフトウェア、ハイパーバイザー、ファームウェアのバージョンを一覧で表示可能である。	加点	5	5	
1.2.3.1	ハードウェア故障時に、アラートだけではなく、障害箇所をダイアグラムでGUIに表示させることを可能とする	加点	5	5	

1.2.4.1	VMwareハイパーバイザーのSANデータストア、NFSデータストアから直接バックアップが可能である。	加	5	5	
1.2.4.1	取得したバックアップを異なる二次保存先に対してバックアップできる。	加	5	5	
1.2.4.1	仮想基盤サーバ、仮想基盤管理サーバ、監視サーバについてもバックアップできる	加	5	5	
1.2.4.1	ファイルレベルリストアについて次のファイルシステムの内12以上をサポートする。NTFS, FAT, FAT32, ReFS, ext, ext2, ext3, ext4, ReiserFS, JFS, XFS, Btrfs, UFS, UFS2, ZFS, HFS, HFS+	加	5	5	
1.2.4.1	バックアップ内の仮想マシンをハイパーバイザーに転送せずに直接起動できる。	加	20	20	
1.2.5	SNMP経由の監視が可能なこと。	加	10	10	
1.2.5	Webブラウザで監視状態を一元的に確認することが可能なこと。	加	10	10	
1.2.5	Webページの監視機能を有すること。	加	10	10	

1.3 ストレージシステム					
	ネットワークインターフェースを10Gbps対応としている	加	50	50	
1.3.1	仮想基盤サーバに搭載するSSDおよびハードディスクをストレージとして使用し、外部ストレージは使用しない	加	50	50	
1.3.1	ディスク障害時に自動で修復する機能を有する分散ファイルシステムとして導入する。	加	10	10	
1.3.1	データ圧縮機能は、ハードディスク全体ではなく論理的に分割したボリュームに対して任意に圧縮を有効化/無効化できる。	加	5	5	
1.3.1	障害発生時にメーカーのサポートセンターから直接当該機器をリモートメンテナンスする機能を有する。	加	5	5	
1.3.1	メーカーのリモートメンテナンス接続の制御を可能とする。	加	5	5	
1.3.1	管理GUIからストレージソフトウェアのアップグレード可能なバージョンの一覧の取得が可能である。	加	5	5	
1.3.1	ハードウェア故障時に、アラートだけではなく、障害箇所をダイアグラムでGUIに表示させることを可能とする。	加	5	5	
1.3.1	総ストレージ容量の10%以上をSSD搭載する。	加	10	10	
1.3.1	総ストレージ容量の20%以上をSSD搭載する。	加	10	10	
1.3.1	特定のサーバに対しSSDの割り当てを増やすことができる。	加	10	10	

1.3.1	ディスク障害時や、ストレージコンポーネントの障害時に、システムを停止せず交換ができる	加	10	10	
1.3.1	SSDをキャッシュ機能として利用できる	加	10	10	
1.3.1	ディスク総容量の拡張がオンライン状態のまま可能なこと	加	10	10	

1.4 ネットワーク機器					
1.4.1 1.4.3	ネットワークインタフェースを10Gbps対応とした場合加点とする	加	50	50	
1.4.1	負荷分散機能として、下記のロードバランシング方式を備えること。 1. Round Robin (均等) 2. Ratio (比率) 3. Least Connections (最小接続) 4. Fastest (最速)、Least Sessions (最小セッション) 5. Weighted Least Connection (重み付け最小接続) 6. Observed (監視) 7. Predictive (予測) 8. Dynamic Ratio (動的比率)	加	5	5	
1.4.1	21 ヘルスチェック機能として、下記のモニタリング方法をサポートすること。 1. ICMP 2. TCP 3. UDP 4. Diameter 5. RADIUS 6. HTTP 7. HTTPS 8. FTP 9. IMAP 10. LDAP 11. MSSQL 12. MySQL 13. NNTP 14. Oracle 15. POP3 16. PostgreSQL 17. Real Server 18. SASP 19. RPC 20. SIP 21. SMB 22. SOA、 23. WAP 24. WMI 25. Firepass 26. DNS	加	5	5	
1.4.1	22 VLAN ごとにルーティングテーブルや管理ドメインを分割できる機能を備えること。	加	10	10	
1.4.1	23 分散対象サーバの IP アドレスに重複があった場合でも、サーバの IP アドレスを変更することなく、負荷分散処理が可能なこと(ルートドメイン機能)。	加	10	10	

1.5 通信回線					
	※1.5については各項番いずれか1つが加点されるものとする				
1.5.1	回線を1Gbps専有とする	加点	30	150	
1.5.1	回線を1Gbps専有かつ冗長構成とする	加点	60		
1.5.1	回線をベストエフォート型10Gbpsとする	加点	30		
1.5.1	回線をベストエフォート型10Gbpsかつ冗長構成とする	加点	60		
1.5.1	回線を10Gbps専有, またはそれ以上とする	加点	120		
1.5.1	回線を10Gbps専有, またはそれ以上で, かつ冗長構成とする	加点	150		
1.5.2	バックアップ用回線をベストエフォート1Gbps冗長構成とする	加点	5	40	
1.5.2	バックアップ用回線を1Gbps専有とする	加点	15		
1.5.2	バックアップ用回線を1Gbps専有かつ冗長構成とする	加点	20		
1.5.2	バックアップ用回線をベストエフォート型10Gbpsとする	加点	15		
1.5.2	バックアップ用回線をベストエフォート型10Gbpsかつ冗長構成とする	加点	20		
1.5.2	バックアップ用回線を10Gbps専有, またはそれ以上とする	加点	30		
1.5.2	バックアップ用回線を10Gbps専有, またはそれ以上で, かつ冗長構成とする	加点	40		

1.7 ミドルウェア					
1.7.1	運用期間中に追加費用なしでOracleサーバを追加利用できる場合加点とする。	加点	30	30	
1.7.2	運用期間中に追加費用なしでWindowsサーバを追加利用できる場合加点とする。	加点	10	10	

2.4 保守・運用サポート					
	仮想基盤内のAPサーバ・DBサーバともに本機構の依頼から1営業日以内に、リモートよりリソース変更できる	加点	20	20	

その他					
	プレゼンテーション内で、機構に有益な提案である	加点	0~20	20	
	プレゼンテーション内で、機構に画期的または将来性のある提案である	加点	0~20	20	